

数学・理科の学力等に関する国際的な調査について

1 国際数学・理科教育調査

(国際教育到達度評価学会 (I E A) 実施)

【概要】

- ・1964年(昭和39年)に数学、1970年(昭和45年)に理科の第1回調査を実施
- ・国際教育到達度評価学会は、1960年(昭和35年)に設立の非営利の国際学術団体
- ・ユネスコの協力機関(現在、世界の55か国/地域が加盟)
- ・文化的、社会的、経済的背景をもつ国々の間で実証的な教育の比較研究を実施
- ・教育到達度と教育諸要因との関連の明確化がねらい

【平成11年調査結果概要】

- ・我が国の児童生徒の成績は、国際的にトップクラスであり、算数・数学では小学校26か国中3位、中学校38か国中5位、また、理科では小学校26か国中2位、中学校38か国中4位と、全体としておおむね良好。
- ・同一問題の正答率について経年比較しても低下傾向は見られない。
- ・数学や理科が好き、これらに関する職業に就きたいと思う者の割合等が国際的に見て最低レベルであるなどの問題がある。

(調査年、調査対象等)

	調査年	実施教科	参加国
第3回	1995年(平成7年)	数学・理科	41カ国
	1999年(平成11年)	数学・理科*第2段階調査	38カ国

*13歳以上14歳未満の大多数が在籍している隣り合った2学年のうちの上の学年の生徒を対象

(我が国における実施状況(1999年))

	実施生徒数	実施学校数
日本	4,745人	140校
(参考)全体	180,700人	6,076校

2 生徒の学習到達度調査 (P I S A) 2000年 (平成12年) 調査

(O E C D (経済協力開発機構) 実施)

【概要】

- ・2000年(平成12年)に最初の本調査を実施し、以後3年毎のサイクルで調査を実施
- ・思考プロセスの習得、概念の理解及び様々な状況でそれらを生かす力を重視

【平成12年調査結果概要】

- ・知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題に活用する力も日本は国際的に見て、参加31か国中、「総合読解力」では2位グループ、「数学的リテラシー」では1位グループ、「科学的リテラシー」においても1位グループであり上位
- ・「宿題や自分の勉強をする時間」が調査対象27か国中最低
- ・最も高いレベルの読解力を有する生徒の割合はO E C D平均と同程度

(調査年、調査対象等)

	調査年	実施分野	参加国
第1回	2000年(平成12年) 2000年は読解力中心	・総合読解力 ・数学的リテラシー ・科学的リテラシー	31カ国

対象年齢は15歳児(多くの国で義務教育終了年齢)(日本では高1)

(我が国における実施状況(2000年))

	参加生徒数	実施学校(学科)数
日本	5、256人	133校(135学科)
(参考)全体	26万5、000人	

3 数学・理科教育充実のための対応

文部科学省では、科学的な見方や考え方の育成を目指し、観察・実験、課題学習等を重視して学習指導要領を改訂するとともに、科学技術、数学・理科教育の充実のため、以下の施策等からなる「科学技術・理科大好きプラン」を推進しているところである。

【科学技術・理科大好きプランの主な施策】

スーパーサイエンスハイスクール

・高等学校における理科・数学に重点を置いたカリキュラムの研究開発等を実施。

サイエンス・パートナーシップ・プログラム

・大学との連携等により、科学技術に触れる機会や教員研修等を充実する取組を実施。

理科大好きスクール

・小・中学校で観察・実験を重視した取組を行うなど科学に対する知的好奇心や科学的な見方等を育成する取組を実施。

等

1. 国際数学・理科教育調査 (国際教育到達度評価学会 (IEA) 実施)

我が国の児童生徒の成績は、国際的にトップクラスであり、全体としておおむね良好である。
同一問題の正答率について経年比較しても低下傾向は見られない。
しかし、数学や理科が好きであるとか、将来これらに関する職業に就きたいと思う者の割合や、学校外の勉強時間が国際的に見て最低レベルであるなどの問題がある。

(1) 我が国の成績

算数・数学の成績

	小学校	中学校
昭和39年(第1回)	実施していない	2位 / 12国
昭和56年(第2回)	実施していない	1位 / 20国
平成7年(第3回)	3位 / 26国	3位 / 41国
平成11年(第3回追調査)	実施していない	5位 / 38国

(注) 小学校については4年生の成績。中学校については昭和39, 56年は1年生, 平成7年, 11年は2年生の成績。

理科の成績

	小学校	中学校
昭和45年(第1回)	1位 / 16国	1位 / 18国
昭和58年(第2回)	1位 / 19国	2位 / 26国
平成7年(第3回)	2位 / 26国	3位 / 41国
平成11年(第3回追調査)	実施していない	4位 / 38国

(注) 小学校については昭和45年及び58年は5年生, 平成7年は4年生の成績。中学校については各年とも2年生の成績。

(2) 数学・理科に対する意識(中学2年)

数学

	数学が「好き」 または「大好き」	数学の勉強は 楽しい	将来、数学を 使う仕事がし たい	生活の中で 大切
平成7年	53% (68%)	46% (65%)	24% (46%)	71% (92%)
平成11年	48% (72%)	38% (—)	18% (—)	62% (—)
前回との差	5	8	6	9

(注) () 内は国際平均値
(—) 内については国際平均値は発表されていない

理科

	理科が「好き」 または「大好き」	理科の勉強は 楽しい	将来、科学を 使う仕事がし たい	生活の中で 大切
平成7年	56% (73%)	53% (73%)	20% (47%)	48% (79%)
平成11年	55% (79%)	50% (—)	19% (—)	39% (—)
前回との差	1	3	1	9

(注) () 内は国際平均値
(—) 内については国際平均値は発表されていない

(3) 学校外の学習(中学2年)

	1日の学校外での勉強時間	勉強や宿題をわずか でもする生徒の割合
平成7年	2.3時間(3.0時間)	72% (80%)
平成11年	1.7時間(2.8時間)	59% (80%)
前回との差	0.6時間	13

(注) () 内は国際平均値

国際数学・理科教育調査（国際教育到達度評価学会（IEA））
算数の各国別成績（小学校）

第3回(平成7年・26か国)	
国／地域	平均得点
シンガポール	625点
韓国	611
日本	597
香港	587
オランダ	577
チェコ	567
オーストリア	559
スロベニア	552
アイルランド	550
ハンガリー	548
オーストラリア	546
アメリカ	545
カナダ	532
イスラエル	531
ラトビア	525
スコットランド	520
イギリス	513
ノルウェー	502
キプロス	502
ニュージーランド	499
ギリシャ	492
タイ	490
ポルトガル	475
アイスランド	474
イラン	429
クウェート	400

(小学校4年)

*得点は、全児童の平均値が
500点、標準偏差が100点と
なるよう算出されている。

(注) 小学校の算数は、第1回、第2回の国際比較調査は行われていない。

数学の成績(中学校)

第1回 1964年(昭和39年)	
国/地域(12)	平均総得点
イスラエル	32.3点
日本	31.2
ベルギー	30.4
西ドイツ	25.5
イギリス	23.8
スコットランド	22.3
オランダ	21.4
フランス	21.0
オーストラリア	18.9
アメリカ合衆国	17.8
フィンランド	16.1
スウェーデン	15.3

(中学校2年:70点満点)

第2回 1981年(昭和56年)	
国/地域(20)	平均総得点
日本	62.3%
オランダ	57.4
ハンガリー	56.3
フランス	52.6
ベルギー(フラマン語圏)	52.4
カナダ(ブリティッシュコロンビア州)	51.8
スコットランド	50.8
ベルギー(フランス語圏)	50.0
香港	49.5
カナダ(オンタリオ州)	49.4
イギリス	47.4
フィンランド	46.9
ニュージーランド	45.6
アメリカ合衆国	45.5
イスラエル	44.7
タイ	42.3
スウェーデン	41.6
ルクセンブルク	37.6
ナイジェリア	33.9
スワージーランド	31.6

(中学校1年)

第3回TIMSS 1995年(平成7年)	
国/地域(41)	平均得点*
シンガポール	643点
韓国	607
日本	605
香港	588
ベルギー(フラマン語圏)	565
チェコ	564
スロバキア	547
スイス	545
オランダ	541
スロベニア	541
ブルガリア	540
オーストリア	539
フランス	538
ハンガリー	537
ロシア	535
オーストラリア	530
アイルランド	527
カナダ	527
ベルギー(フランス語圏)	526
タイ	522
イスラエル	522
スウェーデン	519
ドイツ	509
ニュージーランド	508
イギリス	506
ノルウェー	503
デンマーク	502
アメリカ合衆国	500
スコットランド	498
ラトビア	493
スペイン	487
アイスランド	487
ギリシャ	484
ルーマニア	482
リトアニア	477
キプロス	474
ポルトガル	454
イラン	428
クウェート	392
コロンビア	385
南アフリカ	354

(中学校2年)

*得点は、全生徒の平均値が500点、標準偏差が100点となるよう算出。

第3回TIMSS-R 1999年(平成11年)	
国/地域(38)	平均得点*
シンガポール	604点
韓国	587
台湾	585
香港	582
日本	579
ベルギー(フラマン語圏)	558
オランダ	540
スロバキア	534
ハンガリー	532
カナダ	531
スロベニア	530
ロシア	526
オーストラリア	525
フィンランド	520
チェコ	520
マレーシア	519
ブルガリア	511
ラトビア	505
アメリカ合衆国	502
イギリス	496
ニュージーランド	491
リトアニア	482
イタリア	479
キプロス	476
ルーマニア	472
モルドバ	469
タイ	467
イスラエル	466
チュニジア	448
マケドニア	447
トルコ	429
ヨルダン	428
イラン	422
インドネシア	403
チリ	392
フィリピン	345
モロッコ	337
南アフリカ	275

(中学校2年)

*得点は、全生徒の平均値が500点、標準偏差が100点となるよう算出。

(注) イングランドはイギリスとして示す。

国際数学・理科教育調査（国際教育到達度評価学会（IEA））
理科の各国別成績（小学校）

第1回(昭和45年・16か国)	
国/地域	平均総得点
日本	21.7点
スウェーデン	18.3
ベルギー(F1)	17.9
アメリカ	17.7
フィンランド	17.5
ハンガリー	16.7
イタリア	16.7
イギリス	15.7
オランダ	15.3
西ドイツ	14.9
スコットランド	14.0
ベルギー(Fr)	13.9
タイ	9.9
チリー	9.1
インド	8.5
イラン	4.1

(小学校5年：40点満点)
ベルギー(F1):フラマン語の地域
ベルギー(Fr):フランス語の地域

第2回(昭和58年・19か国)	
国/地域	平均正答率
日本	64.3%
韓国	64.0
フィンランド	63.8
スウェーデン(4年)	61.1
カナダ(仏語圏)	60.4
ハンガリー	60.2
カナダ(英語圏)	57.2
イタリア	55.8
アメリカ	54.8
オーストラリア	53.5
スウェーデン(3年)	53.4
ノルウェー	52.9
ポーランド	49.7
イスラエル	49.6
イギリス	48.8
シンガポール	46.8
香港	46.6
フィリピン	39.6
ナイジェリア	32.9

(小学校5年)

第3回(平成7年・26か国)	
国/地域	平均得点
韓国	597点
日本	574
アメリカ	565
オーストリア	565
オーストラリア	562
オランダ	557
チェコ	557
イギリス	551
カナダ	549
シンガポール	547
スロベニア	546
アイルランド	539
スコットランド	536
香港	533
ハンガリー	532
ニュージーランド	531
ノルウェー	530
ラトビア	512
イスラエル	505
アイスランド	505
ギリシャ	497
ポルトガル	480
キプロス	475
タイ	473
イラン	416
クウェート	401

(小学校4年)

*得点は、全児童の平均値が500点、標準偏差が100点となるよう算出されている。

理科の成績(中学校)

第1回 1970年(昭和45年)		第2回 1983年(昭和58年)		第3回TIMSS 1995年(平成7年)		第3回TIMSS-R 1999年(平成11年)	
国/地域(18)	平均総得点	国/地域(26)	平均正答率	国/地域(41)	平均得点*	国/地域(38)	平均得点*
日本	31.2 点	ハンガリー	72.2 %	シンガポール	607 点	台湾	569 点
ハンガリー	29.1	日本	67.3	チェコ	574	シンガポール	568
オーストラリア	24.6	オランダ	65.8	日本	571	ハンガリー	552
ニュージーランド	24.2	カナダ(英語)	61.9	韓国	565	日本	550
西ドイツ	23.7	イスラエル	61.9	ブルガリア	565	韓国	549
スウェーデン	21.7	フィンランド	61.7	オランダ	560	オランダ	545
アメリカ合衆国	21.6	スウェーデン(8学年)	61.4	スロベニア	560	オーストラリア	540
スコットランド	21.4	ポーランド	60.4	オーストリア	558	チェコ	539
イギリス	21.3	カナダ(仏語)	60.2	ハンガリー	554	イギリス	538
ベルギー(フラマン語圏)	21.2	韓国	60.2	イギリス	552	フィンランド	535
フィンランド	20.5	ノルウェー	59.8	ベルギー(フラマン語圏)	550	スロバキア	535
イタリア	18.5	イタリア(9学年)	59.6	オーストラリア	545	ベルギー(フラマン語圏)	535
オランダ	17.8	オーストラリア	59.5	スロバキア	544	スロベニア	533
タイ	15.6	中国	58.7	ロシア	538	カナダ	533
ベルギー(フランス語圏)	15.4	スウェーデン(7学年)	57.7	アイルランド	538	香港	530
チリ	9.2	イギリス	55.8	スウェーデン	535	ロシア	529
イラン	7.8	タイ	55.1	アメリカ合衆国	534	ブルガリア	518
インド	7.6	シンガポール	54.9	ドイツ	531	アメリカ合衆国	515
		アメリカ合衆国	54.8	カナダ	531	ニュージーランド	510
		香港	54.6	ノルウェー	527	ラトビア	503
		バプアニューギニア	54.5	ニュージーランド	525	イタリア	493
		イタリア(8学年)	52.4	タイ	525	マレーシア	492
		ガーナ	45.5	イスラエル	524	リトアニア	488
		ジンバブエ	41.3	香港	522	タイ	482
		ナイジェリア	40.8	スイス	522	ルーマニア	472
		フィリピン	38.2	スコットランド	517	イスラエル	468
				スペイン	517	キプロス	460
				フランス	498	モルドバ	459
				ギリシャ	497	マケドニア	458
				アイスランド	494	ヨルダン	450
				ルーマニア	486	イラン	448
				ラトビア	485	インドネシア	435
				ポルトガル	480	トルコ	433
				デンマーク	478	チェニジア	430
				リトアニア	476	チリ	420
				ベルギー(フランス語圏)	471	フィリピン	345
				イラン	470	モロッコ	323
				キプロス	463	南アフリカ	243
				クウェート	430		
				コロンビア	411		
				南アフリカ	326		

(中学校3年:80点満点)

(中学校3年)

(中学校2年)

*得点は、全生徒の平均値が500点、標準偏差が100点となるよう算出。

(中学校2年)

*得点は、全生徒の平均値が500点、標準偏差が100点となるよう算出。

(注) イングランドはイギリスとして示す。

2. 生徒の学習到達度調査（PISA）平成12年（2000年）調査 （OECD（経済協力開発機構）実施）

知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題に活用する力についても、日本の子どもは国際的に見て上位
「宿題や自分の勉強をする時間」が参加国中最低
最も高いレベルの読解力を有する生徒の割合はOECD平均と同程度

(1) 平均得点の国際比較（31カ国参加）

総合読解力	1位/フィンランド 2位グループ/カナダ、ニュージーランド、オーストラリア、アイルランド、韓国、イギリス及び日本
数学的リテラシー	1位グループ/日本、韓国及びニュージーランド
科学的リテラシー	1位グループ/韓国及び日本

(2) 総合読解力（習熟度レベル別結果）

	レベル1未満 (低)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5 (高)
日本	2.7	7.3	18.0	33.3	28.8	9.9
フィンランド	1.7	5.2	14.3	28.7	31.6	18.5
イギリス	3.6	9.2	19.6	27.5	24.4	15.6
アメリカ	6.4	11.5	21.0	27.4	21.5	12.2
韓国	0.9	4.8	18.6	38.8	31.1	5.7
OECD平均	6.0	11.9	21.7	28.7	22.3	9.5

(数字は%)

(3) 宿題や自分の勉強をする時間

	宿題や自分の勉強をする時間 (OECD加盟国27カ国中)
日本	27位
フィンランド	23位
イギリス	3位
アメリカ	17位
韓国	20位

数学的リテラシー得点

国名	平均得点		標準偏差	
	平均値	S.E.	平均値	S.E.
OECD加盟国				
日本	557	(5.5)	87	(3.1)
韓国	547	(2.8)	84	(2.0)
ニュージーランド	537	(3.1)	99	(1.9)
フィンランド	536	(2.2)	80	(1.4)
オーストラリア	533	(3.5)	90	(1.6)
カナダ	533	(1.4)	85	(1.1)
スイス	529	(4.4)	100	(2.2)
イギリス	529	(2.5)	92	(1.6)
ベルギー	520	(3.9)	106	(2.9)
フランス	517	(2.7)	89	(1.9)
オーストリア	515	(2.5)	92	(1.7)
デンマーク	514	(2.4)	87	(1.7)
アイスランド	514	(2.3)	85	(1.4)
スウェーデン	510	(2.5)	93	(1.6)
アイルランド	503	(2.7)	84	(1.8)
ノルウェー	499	(2.8)	92	(1.7)
チェコ	498	(2.8)	96	(1.9)
アメリカ	493	(7.6)	98	(2.4)
ドイツ	490	(2.5)	103	(2.4)
ハンガリー	488	(4.0)	98	(2.4)
スペイン	476	(3.1)	91	(1.5)
ポーランド	470	(5.5)	103	(3.8)
イタリア	457	(2.9)	90	(2.4)
ポルトガル	454	(4.1)	91	(1.8)
ギリシャ	447	(5.6)	108	(2.9)
ルクセンブルグ	446	(2.0)	93	(1.8)
メキシコ	387	(3.4)	83	(1.9)
OECD 平均	500	(0.7)	100	(0.4)
OECD非加盟国				
リヒテンシュタイン	514	(7.0)	96	(6.0)
ロシア	478	(5.5)	104	(2.5)
ラトビア	463	(4.5)	103	(2.6)
ブラジル	334	(3.7)	97	(2.3)

- (注) 1 OECD平均は27か国の平均を示す。
 2 表中のS.E.は平均値の標準誤差を示す。

科学的リテラシー得点

国名	平均得点		標準偏差	
	平均値	S.E.	平均値	S.E.
OECD加盟国				
韓国	552	(2.7)	81	(1.8)
日本	550	(5.5)	90	(3.0)
フィンランド	538	(2.5)	86	(1.2)
イギリス	532	(2.7)	98	(2.0)
カナダ	529	(1.6)	89	(1.1)
ニュージーランド	528	(2.4)	101	(2.3)
オーストラリア	528	(3.5)	94	(1.6)
オーストリア	519	(2.6)	91	(1.7)
アイルランド	513	(3.2)	92	(1.7)
スウェーデン	512	(2.5)	93	(1.4)
チェコ	511	(2.4)	94	(1.5)
フランス	500	(3.2)	102	(2.0)
ノルウェー	500	(2.8)	96	(2.0)
アメリカ	499	(7.3)	101	(2.9)
ハンガリー	496	(4.2)	103	(2.3)
アイスランド	496	(2.2)	88	(1.6)
ベルギー	496	(4.3)	111	(3.8)
スイス	496	(4.4)	100	(2.4)
スペイン	491	(3.0)	95	(1.8)
ドイツ	487	(2.4)	102	(2.0)
ポーランド	483	(5.1)	97	(2.7)
デンマーク	481	(2.8)	103	(2.0)
イタリア	478	(3.1)	98	(2.6)
ギリシャ	461	(4.9)	97	(2.6)
ポルトガル	459	(4.0)	89	(1.6)
ルクセンブルグ	443	(2.3)	96	(2.0)
メキシコ	422	(3.2)	77	(2.1)
OECD平均	500	(0.7)	100	(0.5)
OECD非加盟国				
リヒテンシュタイン	476	(7.1)	94	(5.4)
ロシア	460	(4.7)	99	(2.0)
ラトビア	460	(5.6)	98	(3.0)
ブラジル	375	(3.3)	90	(2.3)

注) 表中のS.E.は平均値の標準誤差を示す。

3 数学・理科教育充実のための対応

科学技術・理科大好きプラン及び関連施策

(平成15年度予算額 128億円)
平成16年度予算額(案) 134億円

1. 趣旨

科学技術創造立国の実現を目指し、我が国の技術革新と産業競争力強化を図り、国際社会に積極的に貢献していくためには、質の高い科学技術系人材の育成が不可欠である。また、昨今、青少年の「科学技術離れ」「理科離れ」が指摘されており、これらへの対策を講じることが喫緊の課題となっている。

このため、科学技術、理科・数学教育を重点的に行う学校をスーパーサイエンスハイスクールとして指定するなど、科学技術・理科教育の充実のための様々な施策を総合的・一体的に実施する。

2. 事業の内容

(1) 科学技術・理科大好きプラン【52 52億円】

スーパーサイエンスハイスクール 【11.9 13.5億円】

- ・理科・数学に重点を置いたカリキュラム開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を行う学校をスーパーサイエンスハイスクールとして指定
- ・対象：高等学校、中高一貫教育校 【H15：45校 H16:60校】

理科大好きスクール 【2.5 2.2億円】*1

- ・モデル地域を指定し、地域と域内の小・中学校が一体となって、理科教育の充実のための取組を推進(20地域×10校)
- (*1「地域科学技術理解増進人材の活動推進」からの支援分1.7億円を含む)

地域科学技術理解増進人材の活動推進 【3.9 3.0億円】*2

- ・科学技術理解増進・理科教育に係る地域のボランティアを主な対象に、地域ボランティアの自立と組織化に資する支援を実施 (*2 内数で1.7億円は「理科大好きスクール」の取組を支援)

大学、学協会、研究機関等と教育現場との連携の推進(サイエンス・パートナーシップ・プログラム) 【12.8 12.7億円】

- ・第一線で活躍する研究者・技術者による特別講義、研究機関等を活用した学習プログラム、教員研修の実施等

IT活用型科学技術・理科教育基盤整備事業 【7.4 6.4億円】

- ・最先端の研究成果等を活用した先進的な科学技術・理科教育用デジタル教材の開発及び「教育の情報化」で整備される情報インフラを活用した流通・提供システムを構築

国際科学技術コンテストに対する支援 【新規 0.8億円】

- ・科学技術関連の分野に特筆すべき才能を持つ生徒の個性を伸ばし、社会的に正当に評価する基盤を整備するため、国際大会につながる国内での科学技術コンテストの開催、国際コンテストへの児童生徒の派遣を支援

理科教育等設備整備費補助 【13.5 12.8億円】

- ・理科教育振興法に基づき、学校で行う実験・観察等に必要な設備の整備(小・中・高等学校及び盲・聾・養護学校の理科教育設備、算数・数学教育設備に対し、1/2補助)

環境教育推進グリーンプラン 【0.9 1.0億円】

- ・学校における環境教育を一層推進するため、環境教育に関する優れた実践の促進・普及、情報提供体制の整備、指導者養成講座等を実施

目指せスペシャリスト(15年度からプランに統合) 【(0.9) 1.3億円】

- ・先端的な技術・技能を取り入れた教育や学習活動を重点的に行っている専門高校を指定し、技能の習得法や技術の開発法等についての研究を推進

(2) 科学技術理解増進事業【76 82億円】

国立科学博物館の充実(運営交付金・施設整備費) 【30.9 40.3億円】

日本科学未来館の充実(運営経費等) 【30.9 29.8億円】

その他の科学技術理解増進事業(を除くJST関係経費等) 【14.0 11.9億円】

科学技術・理科大好きプラン及び関連施策

- 技術革新や産業競争力強化を担う将来有為な科学技術系人材の育成 -

運営費交付金中の推計額を含む

平成16年度予算額(案) 13,395百万円(12,752百万円)

大学、研究機関、企業等と教育現場との連携

Science Partnership Program (SPP)

- ✓ 第一線の研究者、技術者による講座の実施
- ✓ 研究機関等を活用した発展的な学習内容の講座の実施や教材の開発
- ✓ 先進的の科学技術に関する教員の研修 等
全国の中学・高等学校等を対象



理科大好きスクールの推進

- ✓ 地域と連携を図り、観察・実験を重視
- ✓ 理科、数学・算数への興味・関心を高めるための指導法の研究や教材開発
- ✓ 教員の観察・実験の指導力の向上 等



地域科学技術理解増進人材の活動推進

- ✓ 理解増進人材のネットワーク及びボランティアが行う理解増進活動への支援体制を構築する



国際科学技術コンテストに対する支援(新規)



- ✓ 高校生を対象とした国際科学技術コンテストの開催及び選手の海外派遣、情報周知等の支援
- ✓ 選手合宿の開催、第一線の研究者による指導の実施(スーパーサイエンスキャンプ(仮称))等



Super Science High School



先進的な授業の実施

- ✓ 先進的な科学技術・理科、数学のカリキュラム開発
- ✓ 必要となる実験機材・消耗品等の整備 等

生徒の知的探究心を

伸ばす取り組み

- ✓ 科学技術系クラブ活動等支援(ボランティア等の活用)
- ✓ 研究発表・交流会等の活動支援 等

理科教育等設備整備費補助

- ✓ 学校における理科教育設備整備に対する補助



目指せスペシャリスト

- ✓ 先端的技術・技能等を取り入れた教育活動の支援
- ✓ 大学・産業・研究機関等との効果的な連携
全国の専門高校を対象

環境教育推進グリーンプラン

- ✓ 学校における環境教育の推進

先進的の科学技術・理科教育用デジタル教材の開発



- ✓ 最先端の研究成果等を活用した、科学技術・理科教育用デジタル教材の研究開発
全国の中学・高等学校等を対象に配信



各種科学技術・理科教育関連施策

- ✓ 国立科学博物館の管理・運営
- ✓ 日本科学未来館の管理・運営
- ✓ 先駆的の科学技術展示開発事業



等

